

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年6月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674200060
法人名	社会福祉法人 伸志会
事業所名	グループホーム のぞみ (B棟)
所在地	鹿児島県薩摩川内市祁答院町藺牟田2013番地6 (電話) 0996-31-8101
自己評価作成日	令和4年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには藺牟田池自然公園のある自然豊かな環境の中にグループホームのぞみがあります。ホーム内でゆったりと温泉に浸り、四季折々の自然を楽しみながら、静かな環境の中で生活されています。家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースを大切にしながらも、入居者様の持てる力を発揮して頂き、家事等をスタッフと一緒にいき、出来ることを役割とすることで生活の張り合いとなられるようにしています。

- ・同敷地にクリニック、隣接して同法人の特別養護老人ホーム、デイサービス、在宅介護支援センター等もあり医療福祉の連携を取り、安心して生活できる環境にあります。
- ・食事は管理栄養士作成の献立であり、栄養的には管理されています。お米や味噌、毎日の食材も地元の業者に発注し、届けてもらっています。行事食や保存食を作ることで、季節を感じて頂けるようにしています。保存食作り(梅干し、干し大根、干し柿、らっきょう漬けあく巻き等)は、入居者様の手や知恵を借りて一緒に作っています。
- ・コロナ禍でご家族との面会は、インターフォンを使用し、窓越しでの面会を行っています。外出機会は少ないですが、月2回のドライブデイと季節の花を見に出かけるなどの外出機会を設け、気分転換を図れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I . 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念やキャッチフレーズを作り、目の届くところへ掲示してある。朝の申し送り時復唱し全スタッフで共有し常に意識し実践に繋がられるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての日常的な交流は出来ていない。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	これまでは、中学生の福祉体験学習や福祉科学生の実習の受け入れを行っていたが、現在はコロナ禍で出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催されており、グループホームの取り組みや利用者様の状況報告がされている。市役所からの情報や消防署からの現状報告があり情報収集も出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会に市の担当者が参加して下さり、実情や取り組み等を伝え意見を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回行い、拘束しないケアを話し合っている。身体拘束における弊害の勉強会も行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、呼び鈴をつける等の工夫をしながら、帰宅願望のある方もあるが、見守りや同行をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉による虐待の理解を、リモート研修やケア会議等の勉強会で深め防止に努めている。日常生活の中で虐待ではないかという事を常に考えながら介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	これまで、活用されている方がなく、実際に活用を支援したことがないため、どこまで理解できているかも分からない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の前に一通りご家族に書類に目を通していただき、入居日に説明を行っている。不安や疑問点を伺い納得して頂けるようにしている。改定の時には、説明会を開催したり、文書にて説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様が運営に関して意見を言われることは殆んどない。ご家族の意見は、家族会時に伺う機会もあったが、現在は家族会も開催できず、面会も窓越し面会でゆっくりと話す機会を設けることが出来ていない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が意見や提案をする機会には職員会議やケア会議にある。利用者様のために必要なことは、ある程度反映して頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や勤務状況をどこまで把握されているかは分からない。環境等の整備を提案すると改善する方向で考えてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修もなく、しばらく研修参加が出来ていなかったが、昨年度はリモート研修に参加することが出来た。資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームもあるがなかなか勉強会や相互訪問等の活動が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人とお会いしてお話をしたり様子を伺っている。入居されてからはお話をしたり、本人の表情や行動を見ながら、ゆっくりと信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にグループホームに足を運んで、雰囲気等を見て頂いている。ご家族の要望に耳を傾け、入居されてしばらくは様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後はご本人の様子を伺いながら、何が必要な支援であるかを見極めて、適切な支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをやって頂きながら、家庭の中で生活しているような関係を築き、暮らしを共にするという考え方を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で窓越し面会であるが、インターホンを利用し家族との会話がスムーズにできるようにしている。2か月毎にのぞみ新聞、お手紙や電話で近況報告をし、共に支えていく関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は誰でも面会に来て頂いていたが現在は出来ず、家族以外の方とは逢うことが出来ていない。自宅に帰ることは出来ていないが、ドライブデイで自宅近くを通ることはある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席は話や気の合う方が近くになるようにし、利用者様同士の関係がよくなるように支援している。一人で過ごされることが良い方もあり、食卓で一人で過ごされることもある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、同系列の特養へ入居された方と以前は逢う機会があったが現在はない。相談や支援をすることはないが、ご家族と地域で逢うこともあり、話をしたりこれまでの関係性は大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中で会話をしながら、希望や思い、不安なことを聞いて、本人の思いを大事にしている。聞いたことは職員間で共有している。なかなか言葉で表すことが難しく表情や行動で汲み取り本人本位の支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの家庭での様子や利用されていたデイサービスでの様子等の情報を提供して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を心身状態の把握に努め、一日の中でも変化するので、すぐに気づけるようにしている。一人ひとりの生活のリズムを把握し部屋に閉じこもられることがないように、本人の出来ることやレクや手伝い、有する力を見極められるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行い、スタッフで話し合い意見やアイディアを反映し、またご家族の意見も聞いて、介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人録に食事、水分、排泄については、日常生活記録表に記入し、職員間で利用者様の心身状態を把握し共有している。また申し送りや連絡帳でその他の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍で他科受診もスタッフで支援している。必要な物の購入はご家族に相談をした上で本人様に合ったものをご購入できるようにスタッフで行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はボランティアの訪問があり、地域の方と逢える機会があったが、現在は無い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にほとんどの方が敷地内にあるクリニックをかかりつけ医に変更されている。定期受診や定期的な採血や検査もされ、適切な医療が受けられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職員が居ないため、クリニックのDr. や看護師に相談している。小さな異変や変化を見逃さないようにし、何かあればすぐに受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら病院と連携を取り、情報交換や相談をしながら早期の退院ができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に重症化した場合の方針を説明し、同意を頂いている。だんだんと重度化していく段階で状況報告をしながら、次の段階への話を進めている。（特養への申請等）		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習は受けているが、最近ではコロナ過で講習会は行っていない。急変時や事故発生時、その場にいた職員で初期対応は出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害時の災害に備えて、利用者様も参加して避難訓練を行っている。火災時の訓練は昼間と夜間の想定で行っている。地域の消防団や同法人の職員等の協力が得られている。地震時の訓練もしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーを守るということを意識しながら、毎日の生活での言葉かけや対応を行っているが、時々感情的になってしまうことがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	一人ひとりの状態に合わせた声かけを行うようにしている。“どうですか？”“いいですか？”と声かけし、自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その時の体調や気持ちに合わせて柔軟な対応をしている。時には希望に添えず、職員の都合になってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は定期的に訪問散髪をお願いしている。朝の整髪は自分の櫛で自分で出来るように支援している。爪切りも支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや食器洗い、台拭きやお膳拭き等、一人ひとりの力を活かし、職員と一緒にやっている。また、一人ひとりに合った食事量を提供し、行事食を作り、季節を感じて頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立があるため、栄養はバランスよく管理されている。一人ひとりに合った食事量や水分量、刻み食や誤えん防止のとりみ使用等提供し、食事量や水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、見守り介助を行っている。自歯がある方はハミガキを使用し、しっかりと磨けるように支援し、義歯は夜間に洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。失敗をしての着替えを減らせるように尿取りパットを使用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間はゆっくりと休んで頂けるように大きめの尿取りパットやリハビリパンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、便秘が続かないように、朝のヨーグルト、食事や水分もしっかり取って頂くことで予防に努めている。それでも便秘薬を服用されている方も多く、様子を見ながら薬を調整している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉を引いてあり特別な行事がない限り一日おきに入浴して頂いている。希望を聞いて入浴時間を決めることは出来ていないが、気分や体調に合わせてタイミングを見ながら入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その夜の睡眠状況によっては、起床時間を延ばし、朝食時間を遅らせ体調に合わせて休んで頂いている。昼食後、1時間程度昼寝をされたり、ソファで休養されている。空調の調整や季節の寝具の調整を行い、布団干しやカーパー等の洗濯にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬されている薬の目的、用量については、確認をし、把握に務めている。薬の変更や容量の変更時は状態の変化がないか十分に気をつけている。誤薬のないように二重チェックを行い、飲みこまれるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る力を把握しながら、生活の中で役割を持って頂くことで生きがいへ繋がるように支援している。ドライブディにて外出し、気分転換になるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に添っての外出の支援は出来ていないが、月2回のドライブディの外出や季節の花を見に出かける等の外出機会を設けている。コロナ禍のため、家族との外出は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことや使う事の大切さは理解しているが自分自身でお金を管理することが難しい方がほとんどであり、事務所で預かっている。コロナ禍でお金を使う機会もない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話は取り次ぎし、贈り物が届いた時には、お礼の電話をし、お話されている。手紙を書かれる方はいらっしゃらないので、年賀状を家族へ書いて頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに花を生け、壁面には季節感のある壁面制作を利用者様と一緒にしている。温度や湿度にも気をつけ、加湿や除湿、空気清浄機を使用している。コロナ禍での空気の入替えにも気をつけ、こまめに行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席は相性や状況に応じて変えたりしている。共同空間には、ソファを置いてあり、テレビを見たり会話を楽しめたり、食卓席で雑誌を見られたり、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備えてあるものを使用しているが、タンスや衣装ケース等はご家族が準備して下さっている。家族の写真を飾られたり、自分で作られたカレンダーや誕生カード等を飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のあらゆる場所に手すりが設置してある。居室が分かるように名札をかけ、トイレが分かるように矢印をしたり工夫をしている。押し車や車椅子が多いので置き場所に気をつけたり、ベッドからの立ち上がり時滑らないようにマットを敷く等安全に生活されるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない